

日本地名辞書の開発と地名属性からの特徴分析

桶谷猪久夫*¹ 前川 武*²

Development of a Gazetteer of Japanese Place Names and Analysis of their Characteristics using Place Name Attributes

Ikuo Oketani*¹ Takeshi Maekawa*²

Abstract

With the recent widespread availability of GIS, the correlation of the geographic information with digital maps and satellite images, has become useful in the humanities, particularly in archeology, history and area studies.

Accordingly a database of the index of *Dainihon Chimeijisho* (*The Dictionary of Place Names in Greater Japan*) edited by Togo Yoshida in 1900 (Meiji 30) was created.

This work provides a detailed explanation of historical place names and the names of natural features, and changes in them. The index contains 53,956 place names in *kanji* and *kana*.

The database for the Japanese Historical Gazetteer was digitized by entering *kanji*, *kana* and romanized place names, the geographical relationships of historical administrative areas, their relationship to current administrative districts, and latitude and longitude, based on the *Dainihon Chimeijisho* index.

The authors are planning to merge place names and the digitized index of the index of places (Chi no Bu) of the *Kojiruien*, a 1914 encyclopedia, in order to complete the place names of ancient Japan. Additionally it is planned to merge the *Shikinaisyu* (the 2,842 shrines registered with the *Jinmyocho* of *Engishiki*) with the *Dainihon Chimeijisho*.

Finally the characteristics of the place names are analyzed, along with their distribution, using place name attributes that comprise the data items in the dictionary.

The Japanese historical Gazetteer was constructed using OpenText (DBMS) and the record structure is adapted XML.

* 1 おけたに いくお：大阪国際大学国際コミュニケーション学部教授 (2007.9.26受理)

* 2 まえかわ たけし：大阪国際大学短期大学部准教授

Key Words

Dainihon Chimeijisho (The Dictionary of Place Names in Greater Japan)

Kojiruien (Kojiruien is a kind of encyclopedia)

Shikinaisha (Shrines registered with Jinmyocho of Englishiki)

Database, Characteristic of Place Names Attribute

1. はじめに

近年の地理情報システム (GIS :Geographic Information System) の急速な普及により、考古学、民俗学、歴史学、地域研究といった人文科学の各分野においても、デジタル化された地図や衛星画像などの地理情報との連携が共同研究支援に有効になってきている。しかし、海外における時空間情報を利用した人文科学研究の事例は増えつつあるが、国内では、デジタル地名辞書などの研究基盤となるツールが皆無に近いのが現状である。

このような状況下で、我々は歴史的なデジタル地名辞書等の作成、有効なデータベース化と共同開発した地理情報共有システム (HuMAP :Geographic Information Sharing System for Human) とのインターフェースを開発した。デジタル地名辞書の基礎となる「大日本地名辞書」は、明治33年に初版が発行された日本で最初の本格的な地名辞書である。

本稿では、吉田東吾 (1864年：元治元年～1918年：大正7年) が32歳から44歳にわたる13年間で書き上げ、1907年 (明治40年) に完成した全国の地誌である「大日本地名辞書」 (全11巻)、5,580頁以上、1,200万字の地名辞書の構築とデータベース化を実現した。吉田東伍は、陸奥から薩摩までと汎論・索引を作成し、第3版から追加された琉球、台湾、北海道、樺太は含まれていなかった。本稿では、北海道から沖縄 (琉球) までの日本全土の地名辞書のデータベース化を構築した。また、延喜式巻9と巻10 (延喜式神名帳) に記載された神社 (式内社) 2,861社とそこに鎮座する神の数3,132座のデータベース化とそれらの位置情報等との統合も実現した。さらに、明治時代に部類別に分類され編纂された一種の百科事典である古事類苑の地部の部分との統合を計画している。最後に、我々が本地名辞書に付与した地名属性からみた地名の特徴や地名属性ごとの分布状況等について述べる。

2. 本日本地名辞書データベース構築の目的と対象としている各文献

最近、考古学、民俗学、歴史学、地域研究といった人文科学の各分野においても、デジタル化された地図や地理情報との連携が共同研究支援に有効になってきている。また、我々が共同開発した地理情報共有システム (HuMAP :Geographic Information Sharing System for Human) の基礎データとしてデジタル地名辞書の必要性が重要になってきた。そのため、人文科学分野で利用可能なデジタル地名辞書のデータベース化とGISとのインターフェースの実現は必要不可欠になってきている。

以下に、本日本地名辞書データベース構築において直接対象とした各文献の概要を簡単に説明する。

(1) 大日本地名辞書 (吉田東伍著)^[1]

デジタル地名辞書の基礎となる大日本地名辞書 (*Dainihon Chimeijisho : The Dictionary of Place Names in Greater Japan*) は、吉田東伍 (1864年：元治元年～1918年：大正7年) が1895年 (明治28年) から日本には統一した地誌がないことに着目し、地名辞書の編纂を決意し、独力で13年かけて編纂した日本で最初の本格的な地名辞書である。国土の国名、郡名、町村名、郷名、神社、寺院、山川、湖沼、港湾などの地名に関する考証・変遷などが詳しく解説されている。索引には53,676に及ぶ地名が「漢字」と「仮名」により記述されている。

本地名辞書データベースでは、大日本地名辞書の索引部をベースに、地名の漢字、仮名ヨミ、ローマ字表記、国・郡・郷、地名の形状、地名属性など地理的包含関係、現在の市町村との対応付け (平成大合併の市町村も付加)、緯度・経度を付与しデジタル化を行った。さらに、地名の変遷情報についても可能限り付与した。大日本地名辞書は、明治33年に初版が発行され、刊行から百年以上も経た現在でも地理学、歴史、古典文学や民俗学の研究に必要な基礎資料として活用されている。

大日本地名辞書の収録範囲は、第1巻から第8巻までであり、各地域別に分けて掲載されている。初版は全11巻からなり、総ページ数は5,580ページ、1,200万文字で構成されている。その後増補され、現在、日本全土 (北海道から沖縄 (琉球)) までが収録されている。その内容は、以下のようにになっている

- 第1巻 凡論・索引
- 第2巻 上方 (現在の近畿地方)
- 第3巻 四国・中国
- 第4巻 西国 (現在の九州地方)
- 第5巻 東国・北国 (現在の中部地方)
- 第6巻 坂東 (現在の関東地方)
- 第7巻 奥羽 (現在の東北地方)
- 第8巻 琉球・台湾・北海道・樺太

大日本地名辞書の冊子を図1に、具体的な地名が記述されている第1巻の索引部の例を図2に示す。また、表1に地名辞書索引部に掲載された地名 (漢字と仮名) の地域毎の合計と総数を示す。総数が若干異なるのは、地名が索引部にないが本文に出現したものは番号99999で追加したためである。

(2) 式内社^[2,3]

式内社は、延喜式の延喜式神名帳といわれる第9巻と10巻に掲載されている。延喜式は、

表 1. 地名辞書索引部の地名（漢字と仮名）の総数

	地名数
日本 (Japan)	52,547
北海道 (Hokkaido)	2,585
琉球 (Ryukyu)	879
その他 (Others)	49,083
樺太 (Sakhalin)	467
台湾 (Taiwan)	942
合計 (Total)	53,956

延喜5年（905年）、醍醐天皇の命により左大臣藤原時平を長とし12名の編集委員で編纂を開始し、時平の死後は藤原忠平が編纂に当たり、延長5年（927年）に完成し奏上され、その後も改訂が加えられ、40年後の康保4年（967年）より施行された律令の施行細則を記載した書物である。全50巻、条数は約3,300条からなり神祇関係は第1巻から第10巻に配列されている。延喜時代に編纂されたことから「延喜式」と称され、既に存在していた「弘仁式」、「貞観式」とあわせ三代格式と言われるが、ほぼ完全な形で今日に伝えられているのは「延喜式」だけであり、日本国家生成の過程の研究、平安時代の研究や古代史・法制史研究に不可欠の貴重文献であるといわれる。

その延喜式神名帳といわれる第9巻と10巻に記載された神社が式内社である。延喜式全50巻のうち第1巻から第10巻が神祇関係（神祇式）で、第9巻と第10巻が延喜式神名帳といわれ、そこに記載された神社を式内社と言い社格の一つとされ、当時朝廷から「官社」として重要視された神社であることを示している。延喜式神名帳に記載された神社（式内社）は全国で2,861社で、そこに鎮座する神の数は3,132座である。

「神名帳」とは、古代律令制における神祇官が作成していた官社の一覧表のことであり、そこには国名、郡名別に神社が記載されており、また祭神、社格なども記載されている。

式内社を研究することは、日本神道を中心に古代日本の文化と日本人の精神生活の研究、その当時の事物や社会の様相を研究する上で重要であり不可欠である。

(3) 古事類苑^[4]

古事類苑は、明治12年（1879年）から文部省により部類別に分類され編纂された一種の百科事典である。六国史から慶応期までの諸文献を引用している。完成は明治40年（1907年）で全1,000巻から構成されている。和装本で350冊、洋装本で51冊（60冊もあり）からなる。引用されている内容は、天部、歳時部、地部、神祇部、帝王部、官位部、封祿部、政治部、法律部など30部門からなっている。ここで対象としたのは、地部（一）、地部（二）、地部（三）の3巻から旧国名、郡名、具体的な地名やその属性、緯度（漢数字）、経度（ある地点からの相対）を参照に、変換、加筆・修正して地名辞書との統合を図っている。

古事類苑の冊子を図3に、具体的な地理情報を記述した大和の国の例を図4に示す。

3. 大日本地名辞書データベースの概要と検索機能

我々は、大日本地名辞書データベースを近年有力な研究基盤となっているWeb上で設計し、各種の項目を利用し検索できるように開発・構築した。つまり、Web上から大日本地名辞書での旧国名、郡名、町村名、郷名などの行政地名だけでなく、神社名、寺院名などの建物、河川、湖沼、港湾などの水部、山、岳、峠などの地形からも検索可能であり、その位置情報（緯度、経度）と日本国土地理院の25,000分の1の地図情報との連携化を実現した。

まず、我々が設計したデータ項目を下記に示す。

- ・ID：全レコードについてユニークな数字
- ・地名：漢字、仮名表示、ローマ字表記
- ・郡名：地名が包含される旧郡名、漢字、仮名表示、ローマ字表記
- ・国名：地名が包含される旧国名、漢字、仮名表示、ローマ字表記
- ・比定地名：地名に対応する現在の地名、漢字、仮名表示、ローマ字表記
- ・平成大改訂の地名：漢字、仮名表示、ローマ字表記
- ・形状：地名が表す場所が、点、線、面であるかの区別
- ・位置記述法：点、線、矩形、多角形
- ・緯度：地名を代表する地点の緯度
- ・経度：地名を代表する地点の経度、記述法は緯度に準ずるものとする。
- ・地名属性：行政地名、山、岳、河川、湖沼、湾、建物（神社、寺院）、橋など
- ・上限時代：その地名が有効であった上限年代（yymmdd）
- ・下限時代：その地名が有効であった下限年代（yymmdd）
- ・大日本地名辞書の巻号、該当ページ（拡張を考慮）
- ・備考：緯度・経度・地名の比定に関わる情報

基礎資料である大日本地名辞書の索引部の各地名を1レコードと見なし、各種の項目情報での検索を実現するために前述の各種データ項目を定義・作成している。

簡便なWebブラウザを利用し、XML（Extensible Markup Language）タグを有効に利用した、効率的で融通性のある検索を実行するため、全文検索システムとしてパトシリア（Patricia）ツリー方式を採用しているデータベース管理システム（カナダ、OpenText社）を格納構造として利用し、それに備わっている高速テキスト検索に有効なツールで、コマンド・モードで実行可能な高速検索エンジンPAT70を利用した^[14-17]。これらのマークアップ言語（XML：Extensible Markup Language）を採用しタグ付けされた地名の各種データ項目の文書型定義DTD（Document Type Definition）の例を以下に示す。

[大日本地名辞書の文書型定義DTDの例]

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>  
-<togo>
```

```

- <vol no="2">
  .
  .
- <item pid="43024">
  <itemcountry>山城</itemcountry>
  <itemcounty>宇治郡</itemcounty>
  <countyreading>ウジ</countyreading>
  <placename reading="マンブクジ">万福寺</placename>
  <pname1>宇治市</pname1>
  <pname2 />
  <pname3 />
  <shp>1</shp>
  <loc>1</loc>
  <lat>34.54.53</lat>
  <long>135.48.22</long>
  <lat2 />
  <long2 />
  <altname>黄檗山萬福寺</altname>
  <parent />
  <attribute>13</attribute>
  <page>239</page>
  <remarks />
</item>

```

具体的な検索例として、本学の近くにある式内社「堤根（ツツミネノ）神社を検索文字列（キーワード）として指定し、検索した結果を示す。堤根神社は、仁徳紀11年の條の「茨田堤」改造に関する説話から、その堤を守護する神として「堤根」と呼称されたといわれている。祭神は、彦八井耳命（ひこやみみのみこと）で、茨田堤の築造に大きな功績をし、水害から守って農耕生産を安定させ、さらにその後も堤の管理をした茨田一族の祖先と言われている。場所は、京阪電鉄「大和田駅（改修基礎工事で弥生時代の銅鐸が3個出土された）」東北約100メートルに建っている^[3、第4巻]。

検索方法は、プロジェクトのHP、pnc-ecai.oiu.ac.jp/chimei を立ち上げ、検索メニューから検索対象の国名を指定（河内）、郡名（この場合指定なし）、該当する地名（堤根神社）を入力し、検索した例を図5に示す。

図6は検索結果表示画面であり、検索後「河内」と「堤根神社」でヒットした一覧が表示される。この場合は、ヒット数（：1）が表示され、その内容が項目毎に表示されている。左側の「詳細」をクリックすると該当する「堤根神社」の地名、ヨミ、国名、郡名、緯度、経度、現在の住所や地名属性（建物・神社）等が詳細に表示される（図7．参照）。



図5. 大日本地名辞書検索システムの検索画面



図6. 大日本地名辞書検索システムの検索結果 (該当) 表示画面

「地図」情報の「国土地理院地図を表示」をクリックすると、その所在情報が国土地理院MAP（25,000分の1）で、図8に示すように詳細MAPが表示される。地図上の○印が「堤根神社」の所在地である。



図7. 大日本地名辞書検索システムの検索結果詳細表示画面



図8. 検索結果の該当所在地の国土地理院MAP表示画面

歴史学、考古学、民俗学、地誌や地域研究のような人文科学の諸分野の研究において、ある時代や地域についての共時的かつ通時的な比較や考察は重要であると思われる。特に、特定の神社や寺院などの研究においては、地理情報との連携化は、地域との関係の研究、日本人の精神生活の研究、その当時の事物や社会の様相を研究する上で重要で資料を提供すると思われる。

4. 地名辞書の地名属性からみた地名の特徴や地名属性ごとの分布状況

地名辞書の研究は、考古学、言語学、民俗学、歴史学、国文学、信仰・文化、地誌、地域研究といった人文科学の各分野の研究にとって重要な役割を果たし、またそれら関連分野の共同研究支援に有効である。

我々は、北海道から沖縄（琉球）までの全国の行政地名だけでなく神社名、寺院名などの建物、河川、湖沼、港湾などの水部、山、岳、峠などの地形、名所旧跡などの地名属性を入力することにより、その地方の自然、風土、文化、精神史の研究などにも利用できるように地名辞書データベースを設計し構築した。その地名属性の属性番号を半角数字で対応を取りながら入力した。それらを表2に示し、地名属性ごとの合計数と地名の総数との割合を表3に示す。

日本の行政地名はほとんどが2文字か3文字で名付けられている。地名辞書（行政地名）の地名文字数の分布を表4に示すが、2文字からなる行政地名は、全体の62.83%、3文字からなる行政地名は、全体の33.62%に達し、両方で96.45%にも達している。つまり、1文字や4文字以上から構成される行政地名は、3.55%（全体の約30分の1）である（表4、参照）。

また、今回、地名辞書の行政地名に出現する文字を調査した。多く出現する地名は、「余戸郷」（81個、0.26%）、「山田」（56個、0.18%）、「吉田」（48個、0.16%）、神部郡（48個、0.16%）、太田（38個、0.12%）と続く。さらに、地名辞書の行政地名で多く出現する1文字は（郷、田、郡、野、大、と続く）、先頭から2文字の数（山田、余戸、大野、神戸、小野、と続く）、先頭から3文字（余戸郷、神戸郷、駅家郷、大野郷、山田郷、と続きほとんどが「郷名」である）の数を調べた結果を表5に示す。

大日本地名辞書に記載された地名から「地名属性」の「山」と「岳」（属性番号：31、合計2,517件）の全国的分布を図9（○印：山、△印：岳）に示す。「山」は、本州と四国に多く、岳は全国に散らばっているが、どちらかといえば北海道、東北地方北部、九州に多い傾向がある。また、「谷」（属性番号：44、合計182件）は、件数は多くなく、全国的に散らばっているが、特に近畿地方に多く、本州以外（北海道、九州、四国）では少ない傾向がある。最後に、国字（日本で作られた漢字、榊、辻、峠などの類）である「峠」は、当然、山間部に多いが全国的に散らばっており、地域的な違いを見出すことができない特徴がある。これらの全国的分布図を、図9、図10、図11に示す^[13]。

表2. 地名属性の番号 (半角入力)

属性		番号	属性		番号	
行政地名	地方	1	地形	峠	41	
	国	2				42
	郡	3			坂	43
	町	4			谷	44
	村	5			道・街道	45
	郷・里	6			浜※3	46
	市	7			三角州・扇状地	47
	字	8			その他※4	49
	その他※1	9				
建物	建物	11	名所旧跡	名所※5	51	
	神社	12		旧跡※6	52	
	寺院	13		滝	53	
	橋	14		温泉	54	
	関所	15		墓地	55	
	その他	19		その他	59	
水部	海・灘	21	その他	火山帯	61	
	河川・用水	22		断層	62	
	湖沼	23		鉱山	63	
	湾・浦	24		その他	69	
	河口	25	地名以外	人名	71	
	港	26		産業名※7	72	
	灯台	27		その他※8	79	
	その他※2	29				
地形	山・岳	31	追加	荘園・新田	81	
	山地	32				
	山脈	33	現在地不明	※9	99	
	高原	34				
	丘陵	35				
	盆地	36				
	平野	37				
	島	38				

- ※1 ~新地・駅亭・宿場を含む。郡や村でもない広域地域の名前も含めるが、備考欄に内容を入力
 ※2 泉・瀬を含む。川の渡しも含めるが、備考欄に内容を入力
 ※3 海岸線・岬など海岸地形も含む ※4 野・原野・森・火口等はその他を含む
 ※5 公園(後樂園・兼六園等) ※6 ~跡, ~址, 天皇陵、古墳なども含む
 ※7 名産品を含む ※8 仏像・馬を含む
 ※9 辞書の説明文に不明と書かれているもの ★42番は空き番です

日本地名辞書の開発と地名属性からの特徴分析

表3. 地名属性ごとの合計数と割合

属性分類	属性	計	割合		
不明、誤記入等	不明、誤記入等	3	0.01%		
行政地名	地方	78	0.16%		
行政地名	国	359	0.72%		
行政地名	郡	1588	3.20%		
行政地名	町	1211	2.44%		
行政地名	村	7248	14.63%	58.73%	
行政地名	郷・里	5007	10.10%		
行政地名	市	108	0.22%		
行政地名	字	12139	24.50%		
行政地名	その他	1365	2.75%		
建物	建物	182	0.37%		14.99%
建物	神社	3364	6.79%		
建物	寺院	3324	6.71%		
建物	橋	131	0.26%		
建物	関所	31	0.06%		
建物	城	184	0.37%		
建物	その他	213	0.43%		
水部	海・灘	70	0.14%	5.86%	
水部	河川・用水	1809	3.65%		
水部	湖沼	342	0.69%		
水部	湾・浦	427	0.86%		
水部	河口	28	0.06%		
水部	港	228	0.46%		
水部	灯台	1	0.00%		
水部	その他	354	0.71%	11.07%	
地形	山・岳	2517	5.08%		
地形	山地	31	0.06%		
地形	山脈	20	0.04%		
地形	高原	23	0.05%		
地形	丘陵	147	0.30%		
地形	盆地	4	0.01%		
地形	平野	67	0.14%		
地形	島	577	1.16%		
地形	峠	288	0.58%		
地形	坂	165	0.33%		
地形	谷	182	0.37%		
地形	道・街道	74	0.15%		
地形	浜	538	1.09%		
地形	三角州・扇状地	11	0.02%		
地形	その他	489	0.99%	6.89%	
名所旧跡	名所	136	0.27%		
名所旧跡	旧跡	2885	5.82%		
名所旧跡	滝	125	0.25%		
名所旧跡	温泉	174	0.35%		
名所旧跡	墓地	52	0.10%		
名所旧跡	その他	42	0.08%		
その他	火山帯	3	0.01%	0.24%	
その他	断層	2	0.00%		
その他	鉱山	95	0.19%		
その他	その他	21	0.04%		
地名以外	人名	260	0.52%	1.06%	
地名以外	産業名	127	0.26%		
地名以外	その他	137	0.28%		
追加	荘園・新田	551	1.11%		
追加	区	19	0.04%		
合計		49556			

表4. 地名辞書（行政地名）の地名文字数の分布

行政地名のみ		
文字数	地名数	%
1	517	1.78%
2	18285	62.83%
3	9784	33.62%
4	488	1.68%
5	26	0.09%
6	3	0.01%
計	29103	

表5. 地名辞書に出現する行政地名

順位	地名の数		1文字の数		2文字の数		3文字の数					
	個数	割合	個数	割合	先頭から 個数	割合	個数	割合				
1	余戸郷	81	0.26%	郷	4491	6.13%	山田	89	0.29%	余戸郷	81	0.73%
2	山田	56	0.18%	田	2562	3.50%	余戸	84	0.28%	神戸郷	48	0.43%
3	吉田	48	0.16%	郡	1706	2.33%	大野	77	0.25%	駅家郷	33	0.30%
4	神戸郷	48	0.16%	野	1476	2.01%	神戸	71	0.23%	大野郷	30	0.27%
5	太田	38	0.12%	大	1282	1.75%	小野	64	0.21%	山田郷	28	0.25%
6	中野	35	0.11%	山	1266	1.73%	吉田	58	0.19%	新居郷	22	0.20%
7	大野	33	0.11%	川	1120	1.53%	小田	49	0.16%	大井郷	20	0.18%
8	駅家郷	33	0.11%	原	928	1.27%	高田	46	0.15%	賀茂郷	19	0.17%
9	大野郷	30	0.10%	小	876	1.20%	太田	44	0.15%	高家郷	19	0.17%
10	高田	30	0.10%	井	765	1.04%	大井	43	0.14%	三宅郷	18	0.16%
11	和田	29	0.09%	島	692	0.94%	中野	42	0.14%	大久保	18	0.16%
12	八幡	28	0.09%	木	686	0.94%	小川	39	0.13%	小野郷	18	0.16%
13	小野	28	0.09%	津	617	0.84%	小山	37	0.12%	物部郷	18	0.16%
14	山田郷	28	0.09%	高	608	0.83%	清水	37	0.12%	賀美郷	18	0.16%
15	中山	27	0.09%	沢	606	0.83%	中村	36	0.12%	日置郷	17	0.15%
16	大谷	27	0.09%	谷	602	0.82%	河内	36	0.12%	郡家郷	17	0.15%
17	清水	27	0.09%	戸	587	0.80%	八幡	35	0.12%	刑部郷	16	0.14%
18	小川	26	0.08%	上	574	0.78%	加茂	34	0.11%	桑原郷	15	0.13%
19	本郷	26	0.08%	中	523	0.71%	和田	34	0.11%	八田郷	14	0.13%
20	中村	24	0.08%	部	522	0.71%	山口	34	0.11%	土師郷	14	0.13%
21	富田	24	0.08%	三	489	0.67%	新田	34	0.11%	坂本郷	14	0.13%
22	山口	24	0.08%	内	475	0.65%	駅家	34	0.11%	大田郷	13	0.12%
23	加茂	23	0.07%	崎	469	0.64%	高野	34	0.11%	海部郷	13	0.12%
24	小山	23	0.07%	石	469	0.64%	大島	32	0.11%	那珂郷	13	0.12%
25	田中	23	0.07%	国	453	0.62%	大田	32	0.11%	高田郷	13	0.12%
合計	全個数	30855		全個数	73257		全個数	30314		全個数	11121	
	全種類	19412		全種類	2125		全種類	15150		全種類	8206	

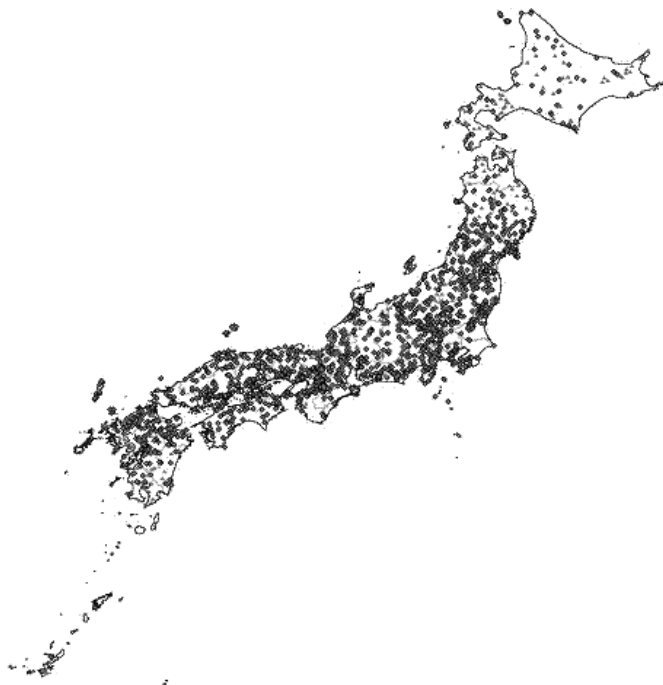


図9. 地名属性の山と岳（緑○印：山、赤△印：岳）の分布



図10. 地名属性の「谷」の分布



図11. 地名属性の「峠」の分布

大日本地名辞書には、表3に神社（地名属性番号：12）が3,364社、寺院（地名属性番号：13）が3,324寺が掲載されている。大日本地名辞書に出現する神社と寺院の合計数を順位1位から15位までの都道府県名と下位の5都道府県名を表6に示す。順位として、京都府（708社寺）、兵庫県（304社寺）、三重県（299社寺）、大阪府（287社寺）、奈良県（275社寺）と近畿地方を中心に並んでいる。この傾向は、表7の地名辞書に出現する神社の各都道府県ごとの合計数と同じ傾向を示している（三重県と大阪府が逆になっているだけ）。しかし、表8から分るように、寺院の各都道府県ごとの合計数は、京都府（451寺）、東京都（146寺）、静岡県（133寺）、愛知県（130寺）、神奈川県（130寺）というようになりかなりの順位の変動がある。基本的に人口が多い都道府県では、神社も寺院も多いことは確かであるが、寺院に対しては、京都府を除けば、関東地方や中部地方に多い傾向がある（当然、関西地方も多い）。神社と寺院の分布とそれらの傾向を図12で示す。

また、それらの詳細を示すため、図13に三重県（伊勢、志摩、伊賀）の神社と寺院の分布（+印：神社、○印：寺院）を図14に京都府（洛中、丹波、丹後、山城）の神社と寺院の分布（+印：神社、○印：寺院）を示す。

なお、大日本地名辞書に出現する神社数と寺院数の割合は、鹿児島県（神社数：44社、神社割合：88.00%）、島根県（神社数：106社、神社割合：86.18%）、鳥取県（神社数：66社、神社割合：77.65%）、三重県（神社数：229社、神社割合：76.59%）、宮崎県（神社数：25社、神社割合：75.76%）となっている。しかし、鹿児島県や宮崎県は神社数も少ないが、島根県や三重県では神社数が総神社寺院数に対して大きな割合を占めている。また、

日本地名辞書の開発と地名属性からの特徴分析

8位に神社数の多い兵庫県（神社数：201社、神社割合：66.12%）がある。

表6. 地名辞書に出現する神社と寺院の各都道府県毎の合計数

順位	都道府県	神社数	神社割合	寺院数	寺院割合	合計
1	京都府	257	36.30%	451	63.70%	708
2	兵庫県	201	66.12%	103	33.88%	304
3	三重県	229	76.59%	70	23.41%	299
4	大阪府	172	59.93%	115	40.07%	287
5	奈良県	160	58.18%	115	41.82%	275
6	愛知県	128	49.61%	130	50.39%	258
7	静岡県	112	45.71%	133	54.29%	245
8	東京都	78	34.82%	146	65.18%	224
9	滋賀県	114	52.29%	104	47.71%	218
10	福島県	74	37.76%	122	62.24%	196
11	福井県	122	63.21%	71	36.79%	193
12	神奈川県	60	31.58%	130	68.42%	190
13	新潟県	84	46.41%	97	53.59%	181
14	茨城県	80	46.51%	92	53.49%	172
15	福岡県	65	38.24%	105	61.76%	170

.

43	青森県	30	60.00%	20	40.00%	50
44	富山県	26	56.52%	20	43.48%	46
45	北海道	21	61.76%	13	38.24%	34
46	宮崎県	25	75.76%	8	24.24%	33
47	佐賀県	19	59.38%	13	40.63%	32

表7. 地名辞書に出現する神社の各都道府県毎の合計数

順位	都道府県	神社数	神社割合	寺院数	寺院割合	合計
1	京都府	257	36.30%	451	63.70%	708
2	三重県	229	76.59%	70	23.41%	299
3	兵庫県	201	66.12%	103	33.88%	304
4	大阪府	172	59.93%	115	40.07%	287
5	奈良県	160	58.18%	115	41.82%	275
6	愛知県	128	49.61%	130	50.39%	258
7	福井県	122	63.21%	71	36.79%	193
8	滋賀県	114	52.29%	104	47.71%	218
9	静岡県	112	45.71%	133	54.29%	245
10	鳥根県	106	86.18%	17	13.82%	123
11	新潟県	84	46.41%	97	53.59%	181
12	和歌山県	84	52.83%	75	47.17%	159
13	宮城県	82	55.41%	66	44.59%	148
14	茨城県	80	46.51%	92	53.49%	172
15	東京都	78	34.82%	146	65.18%	224

.

43	富山県	26	56.52%	20	43.48%	46
44	宮崎県	25	75.76%	8	24.24%	33
45	沖縄県	22	27.50%	58	72.50%	80
46	北海道	21	61.76%	13	38.24%	34
47	佐賀県	19	59.38%	13	40.63%	32

表8. 地名辞書に出現する寺院の各都道府県毎の合計数

順位	都道府県	神社数	神社割合	寺院数	寺院割合	合計
1	京都府	257	36.30%	451	63.70%	708
2	東京都	78	34.82%	146	65.18%	224
3	静岡県	112	45.71%	133	54.29%	245
4	愛知県	128	49.61%	130	50.39%	258
5	神奈川県	60	31.58%	130	68.42%	190
6	福島県	74	37.76%	122	62.24%	196
7	大阪府	172	59.93%	115	40.07%	287
8	奈良県	160	58.18%	115	41.82%	275
9	福岡県	65	38.24%	105	61.76%	170
10	滋賀県	114	52.29%	104	47.71%	218
11	兵庫県	201	66.12%	103	33.88%	304
12	新潟県	84	46.41%	97	53.59%	181
13	茨城県	80	46.51%	92	53.49%	172
14	千葉県	58	39.19%	90	60.81%	148
15	栃木県	52	36.88%	89	63.12%	141
.						
43	鳥根県	106	86.18%	17	13.82%	123
44	北海道	21	61.76%	13	38.24%	34
45	佐賀県	19	59.38%	13	40.63%	32
46	宮崎県	25	75.76%	8	24.24%	33
47	鹿児島県	44	88.00%	6	12.00%	50

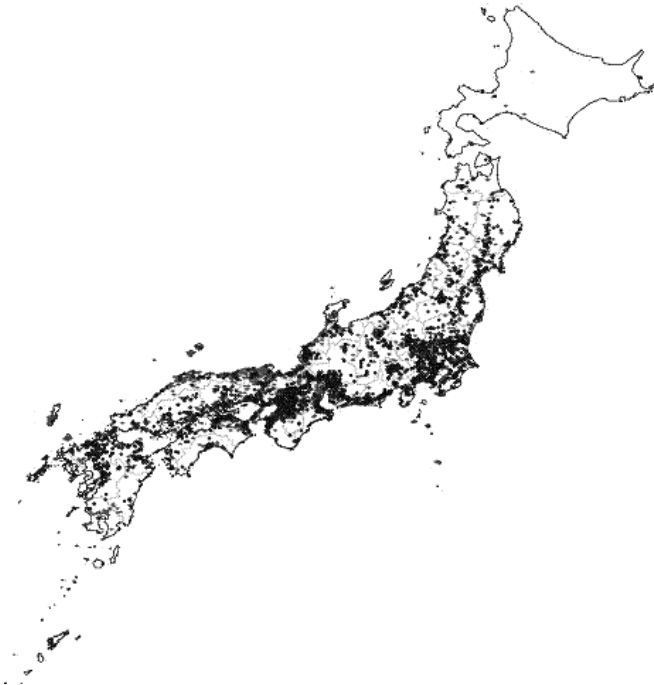


図12. 地名辞書の「神社」と「寺院」(赤★印：神社名、青○印：寺院)の分布

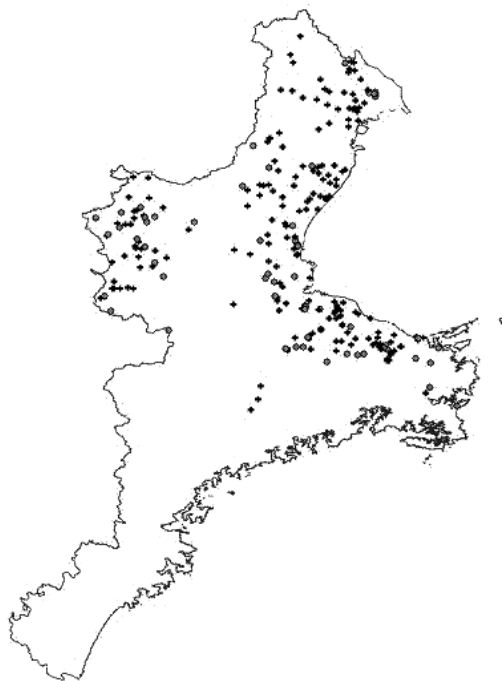


図13. 三重県（伊勢、志摩、伊賀）の神社と寺院の分布（+印：神社、○印：寺院）

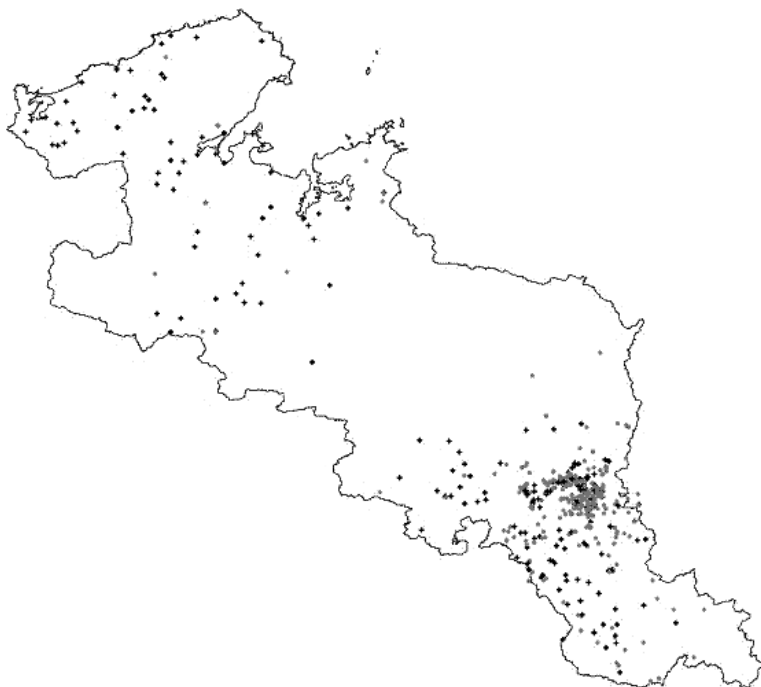


図14. 京都府（洛中、丹波、丹後、山城）の神社と寺院の分布（+印：神社、○印：寺院）

5. まとめと今後の課題

本大日本地名辞書データベースは、URL : <http://pnc-ecai.oiu.ac.jp/chimei>で公開・運用されている^[9]。現在、大日本地名辞書に記載されていた神社数3,364社と延喜式の延喜式神名帳といわれる第9巻と10巻に掲載された神社である式内社（2,861社、そこに鎮座する神の数は3,132座）との統合を進めている。また、古事類苑の地部（一、二、三）との統合は一部完成している。古事類苑の地部は、たとえば、地名の経度が地域の中心となる場所を元に相対的に表示されていることが多いこと、緯度や経度が漢数字で記述されているため、それらの変換が必要である。しかし、古事類苑の地部はXML化されているため、それらの変換は容易であると思われる。さらに、日本寺院データ（約70,000件）との統合も計画している。これらの統合は、今年度中に実現する予定である。

当然、地名辞書の役割として我々が共同開発した地理情報共有システム（HuMAP : Geographic Information Sharing System for Human）とのインターフェースを開発し使用可能になっている。

最後に、本地名辞書データベースの構築に際して、地名情報の入力やデータの校正・編集をやっていただいた新谷廣一氏ほか関係各位に謝意を表す。

なお、本研究は科学研究費基盤研究（B）(2)「XMLを利用した日本古典史料の英日連携検索システムの設計と構築に関する研究」（平成18～20年度、研究代表者 桶谷猪久夫）の下で行った。

【参考文献】

- [1] 吉田東伍著、『大日本地名辞書 第1巻～8巻』富山房、明治40年10月13日初版発行、昭和46年11月25日増補版発行、昭和47年4月20日同再版発行
- [2] 新訂増補 國史大系、『延喜式前篇』、吉川弘文館、1979.5.20, pp.1 - 322
- [3] 式内社研究会編纂、『式内社調査報告 第1巻～第24巻』、皇學館大学出版部、1979.2.20
- [4] 神宮司廳藏、『古事類苑 1（地部一）、2（地部二）、3（地部三）』、吉川弘文館、明治29年初版、昭和45年6月25日発行
- [5] Ikuo Oketani, Mitsuru Aida, “Creation and Application of Japanese Historical Gazetteer - Ontological Approach to Geographical Name and Place -”, PNC (Pacific Neighborhood Consortium) 2006 Annual Conference in Conjunction with PRDLA & ECAI, Seoul National University, Korea, Program and Abstracts, pp.49 - 50, http://pnclink.org:8080/pnc2006/program_detail%20Humanity%20GIS.jsp, pp. 1 -24 (CD-ROM), August 15-18, 2006
- [6] Shoichiro Hara, Ikuo Oketani, “Reconstruction of Historical Landscape - In the context of Ancient Shrines and their Surrounding Features -”, PNC (Pacific Neighborhood Consortium) 2006 Annual Conference in Conjunction with PRDLA & ECAI, Seoul National University, Korea, Program and Abstracts, pp.52 - 52, pp. 1 - 36 (CD-ROM), August 15 - 18, 2006
- [7] 桶谷猪久夫、Delmer Brown、大久保祐子、山尾正之、『XMLを利用した日本古典史料の英日全文連携検索システムの構築 - 日米共同研究について -』、大阪国際大学紀要「大阪国際論叢」第19巻第1号、pp.87 - 110, 2005.10.31
- [8] Japanese Historical Text Initiative : <http://sunsite.berkeley.edu/JTHI/>
- [9] <http://pnc-ecai.oiu.ac.jp/>, 「Japan PNC, ECAI」ホームページ

日本地名辞書の開発と地名属性からの特徴分析

- [10] Shishir Gundavaram “CGI Programming on the World Wide Web” O’Reilly & Associates, Inc., 1996.11
- [11] Larry Wall and Randal L.Schwartz “Programming Perl” O’Reilly & Associates, Inc.,1992.3
- [12] Randal L.Schwartz “Learning Perl” O’Reilly & Associates,Inc., 1994.4
- [13] 「ArcGIS 9 ArcMapユーザーズ・ガイド」、ESRIジャパン株式会社、pp.3 - 587, 2004.7.12
- [14] Infocom Corporation, OpenText7 データベース管理者ガイド
- [15] Infocom Corporation, OpenText7 データベース管理リファレンス・ガイド
- [16] Infocom Corporation, OenText7 PAT Tutorial、マニュアル
- [17] Infocom Corporation, OpenText7 PATリファレンス、マニュアル